

TdZdd: フロンティア法のための効率的なトップダウン ZDD 構築を実現する C++ライブラリ

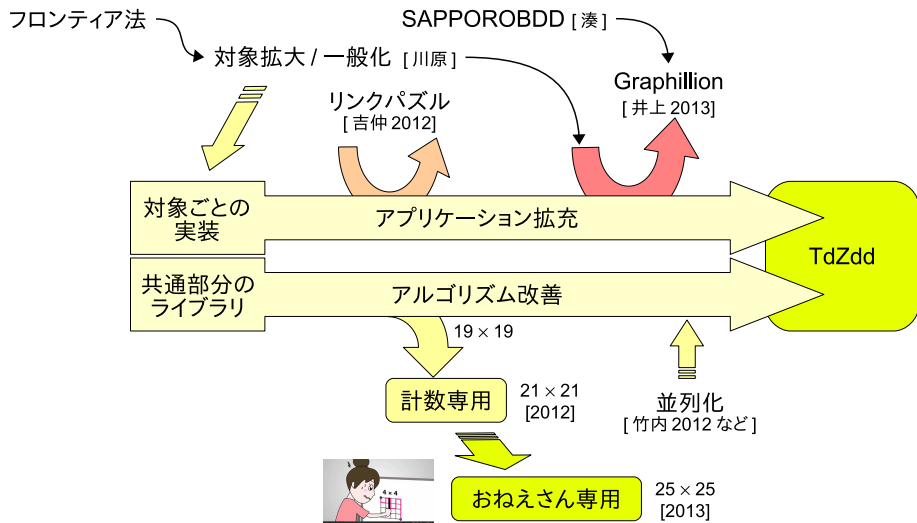
岩下 洋哲

JST ERATO 湊プロジェクト

2013.11.25 ERATO 合宿@登別



歴史的なこと



Outline

- 1 はじめに
- 2 ライブラリの機能
- 3 ライブラリの性能
- 4 おわりに



Outline

1 はじめに

- 2 ライブラリの機能
- 再帰的仕様記述
 - 仕様の合成
 - 仕様からの ZDD 構築

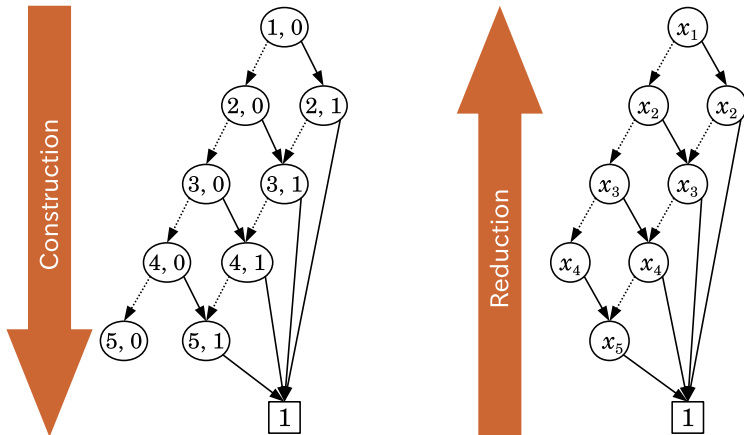
3 ライブラリの性能

4 おわりに



トップダウン ZDD 構築

例: 5 個から 2 個選ぶ組み合わせ



トップダウン ZDD 構築の“仕様”

例: n 個から k 個選ぶ組み合わせ

$Comb_{n,k}.ROOT()$

1: **return** $\langle 1, 0 \rangle$;

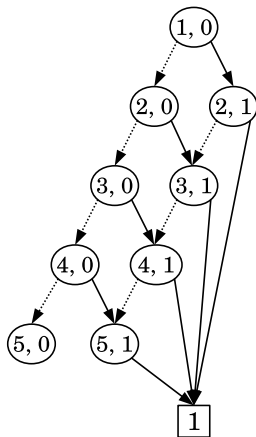
$Comb_{n,k}.CHILD(\langle i, s \rangle, b)$

1: $s \leftarrow s + b$;

2: **if** $s = k$, **return** $\boxed{1}$;

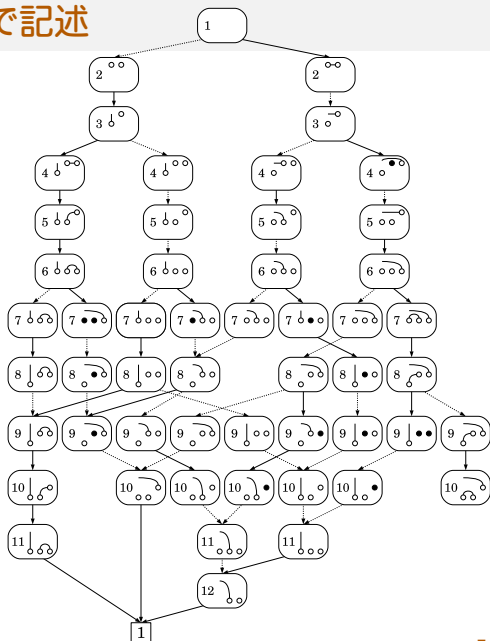
3: **if** $i = n$, **return** $\boxed{0}$;

4: **return** $\langle i + 1, s \rangle$.



フロンティア法も“仕様”で記述

例: パス列挙

 $Path_G.ROOT()$ 1: **return** $\langle 1, mate_0 \rangle$; $Path_G.CHILD(\langle i, mate \rangle, b)$ 1: 辺 i の使用 ($b = 1$) / 不
使用 ($b = 0$) に応じて $mate$
を更新;2: **if** パスが完成, **return** $\boxed{1}$;3: **if** パス完成の見込みなし,
return $\boxed{0}$;4: **return** $\langle i + 1, mate \rangle$.

仕様を返す関数

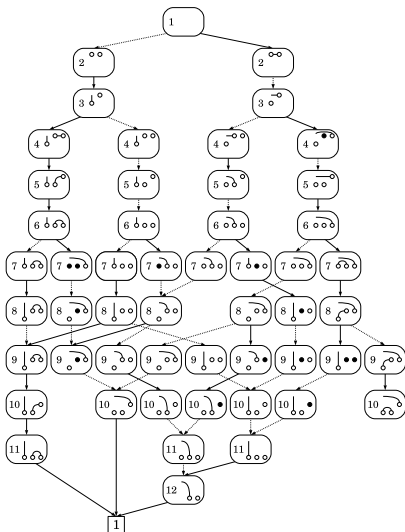
$\text{INTERSECT}(S, T)$... 仕様 S と仕様 T の intersection

$\text{WRAP}(f)$... ZDD f を仕様とみなす

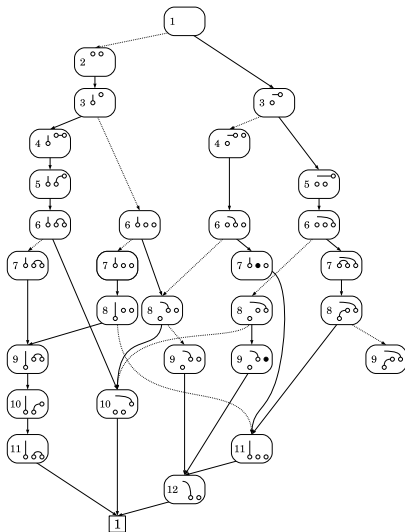
$\text{LOOKAHEAD}(S)$... 仕様 S にゼロサプレス規則を適用



Lookahead の例



$Path_G$ から構築 (52 ノード)



LOOKAHEAD($Path_G$) から構築 (29 ノード)



Lookaheadのしくみ

LOOKAHEAD(S).ROOT()

1: **return** S .ROOT();

LOOKAHEAD(S).CHILD($\langle i, s \rangle, b$)

1: $\langle i', s' \rangle \leftarrow S$.CHILD($\langle i, s \rangle, b$);

2: **while** ラベル $\langle i', s' \rangle$ を持つノードの1枝側の子が 0 **do**

3: $\langle i', s' \rangle \leftarrow S$.CHILD($\langle i', s' \rangle, 0$);

4: **end while**

5: **return** $\langle i', s' \rangle$.



ZDD を返す関数

CONSTRUCT(S) ... 仕様 S に対応する ZDD を構築

SUBSET(f, S) ... ZDD f を制約として ZDD を構築



Subsetting

- 次の 3 つの結果は同じ
 - (1) $\text{SUBSET}(f, S)$
 - (2) $\text{CONSTRUCT}(\text{INTERSECT}(\text{WRAP}(f), S))$
 - (3) $f \cap \text{CONSTRUCT}(S)$
- (1) (2) では S の探索が f を満たす空間に限定される
 - $\text{CONSTRUCT}(S)$ が爆発する場合でも計算できることがある
- (1) は (2) より少し効率が良い

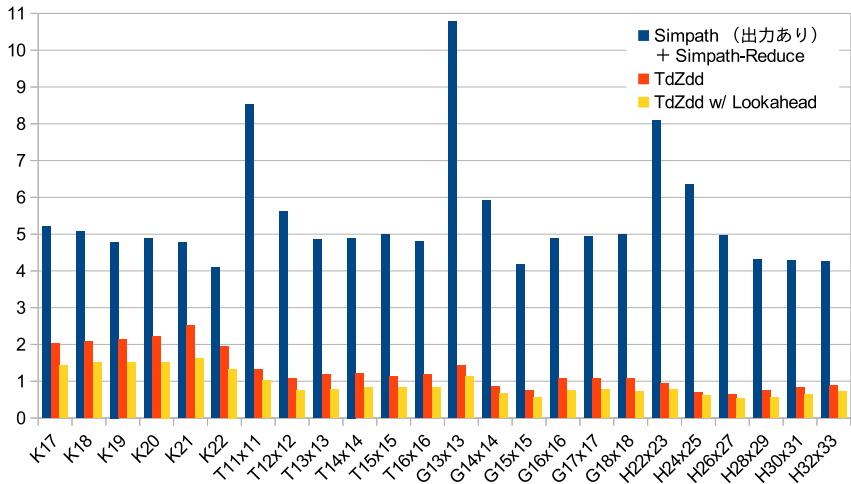


Outline

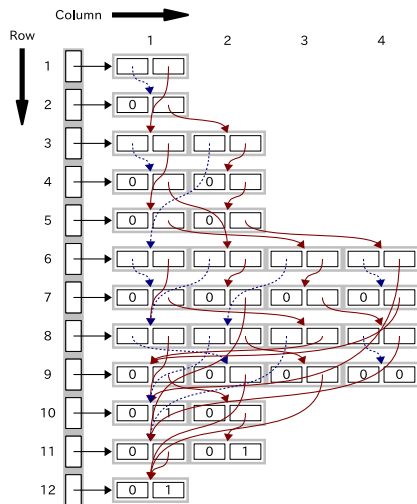
- 1 はじめに
- 2 ライブラリの機能
- 3 ライブラリの性能
 - 基本性能
 - 並列性能
- 4 おわりに



出力を除く Simpath 実行時間を 1 とした相対実行時間



ZDD のデータ構造



主な構成

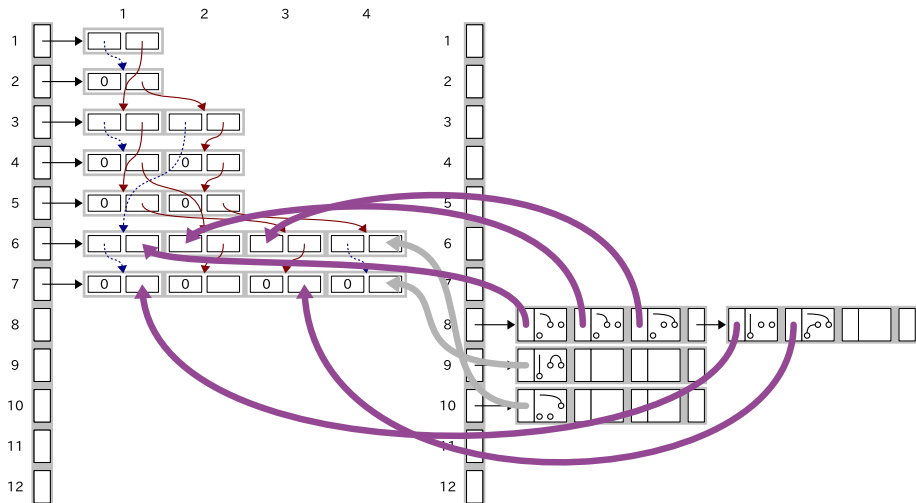
ノード ID ... 8 bytes (20-bit row index
+ 43-bit column index)

ノード ... 16 bytes (ノード ID × 2)

ZDD ... レベル毎のノード配列を保持する配列



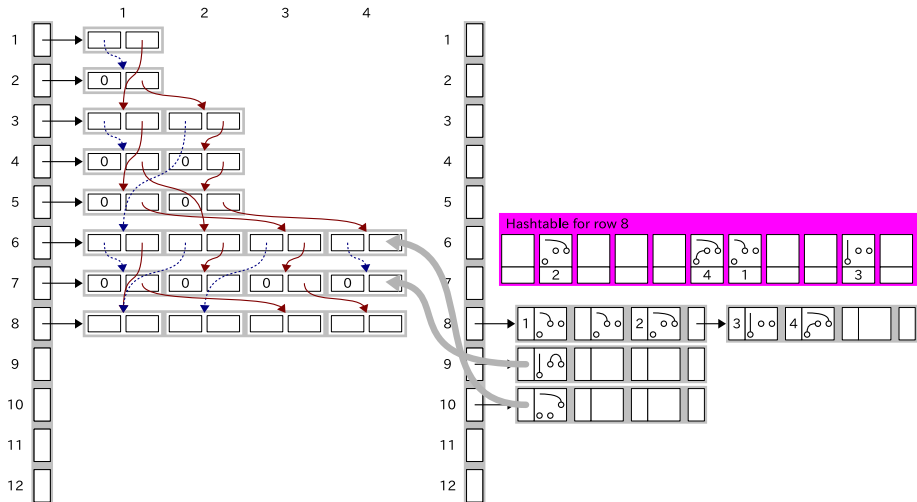
データの局所性を意識した幅優先処理



8 段め構築処理開始時



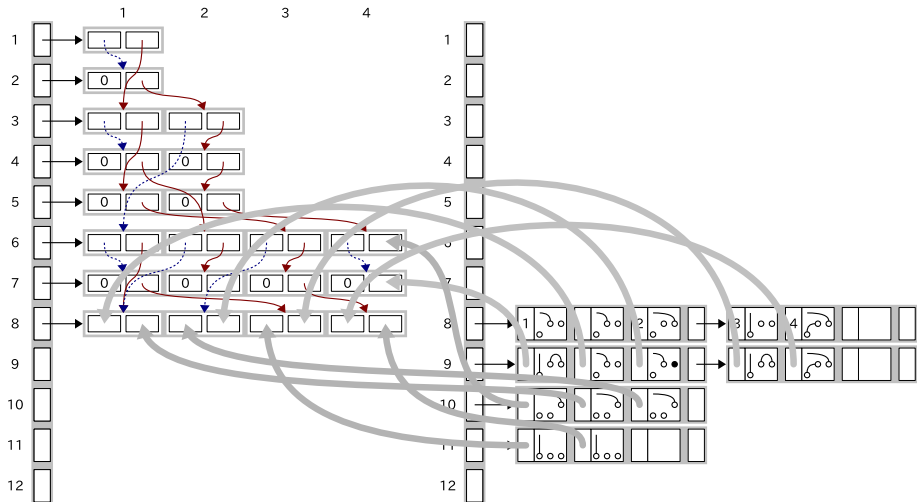
データの局所性を意識した幅優先処理



ハッシュテーブルによるノード共有判定



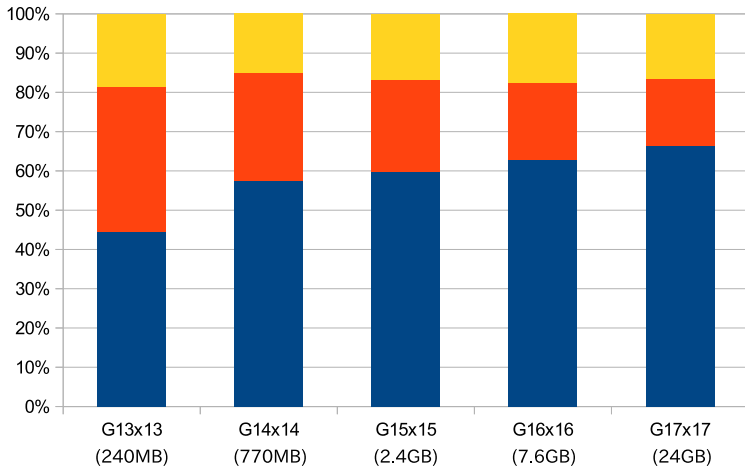
データの局所性を意識した幅優先処理



Child 関数の呼び出し



逐次 Construction 処理中の時間消費率



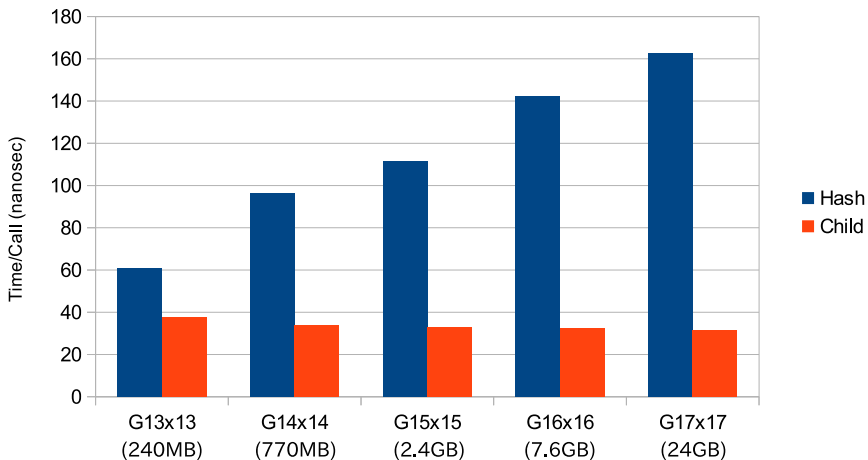
■ その他

■ Child 関数の評価 (実行回数 = 枝数)

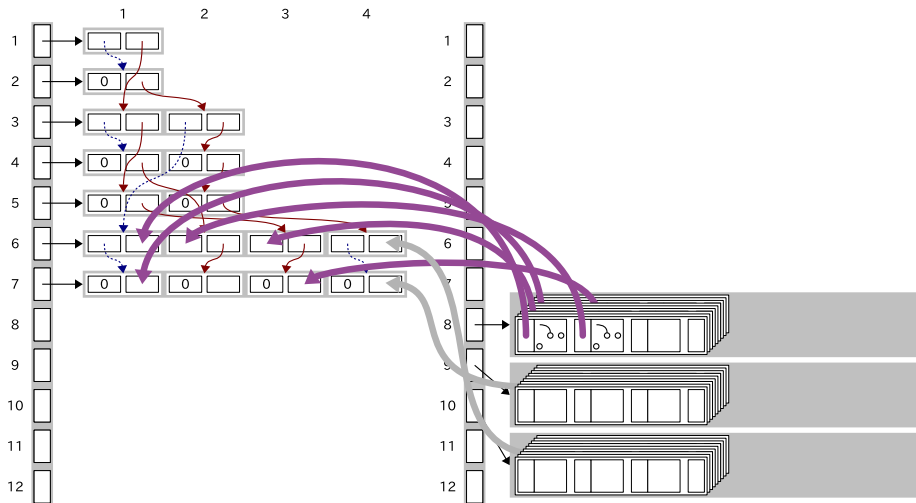
■ ハッシュテーブル要素の検索と挿入 (実行回数 = 非終端ノードへの枝数)



呼び出し 1 回あたりの消費時間 (ナノ秒)



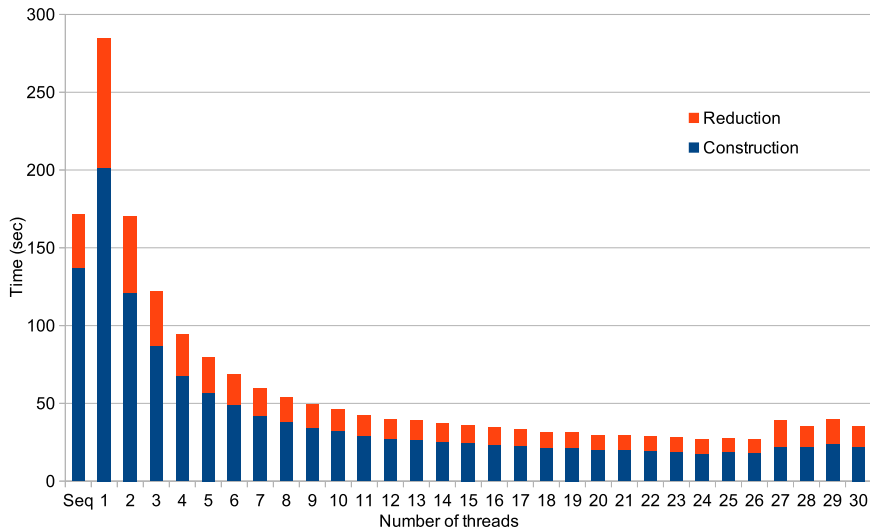
共有メモリ並列処理



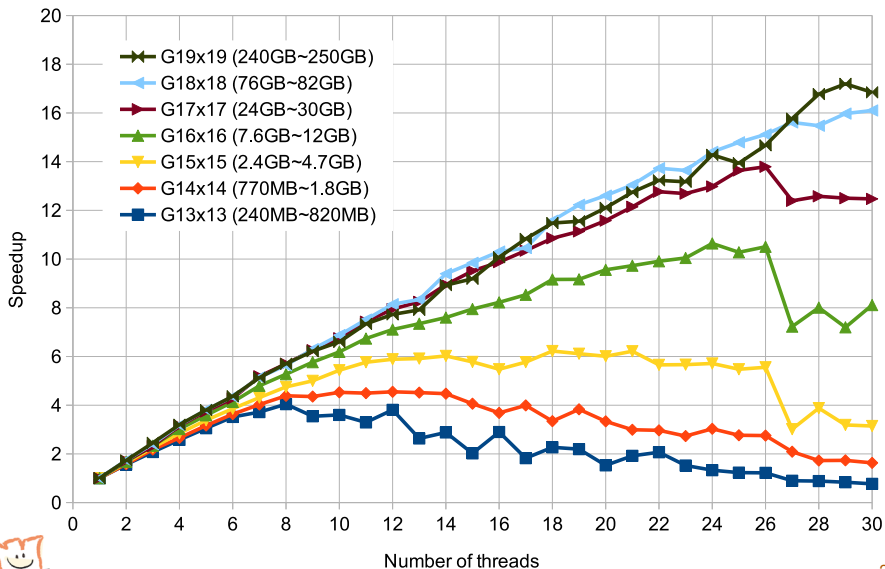
ハッシュコードを用いて状態を複数バケットに分類／並列処理



スレッド数と処理時間 G16x16 (7.6GB~12GB)



1スレッド実行に対する速度比



おわりに

- 一部の機能は Graphillion から利用できます。
 - cliques, connected_components, cycles, forests, graphs, paths, trees → CONSTRUCT
 - 上の関数に graphset オプション引数を追加 → SUBSET
 - 自前の“仕様”を与えることはできない
 - 並列処理はできない
- 全機能の C++ ライブラリとしての公開を計画しています。

